

KiKiの広場

2019年 2月 1日

cafe NO.100
KiKi



2010年の9月にオープンした「ヒストリア字部」と「cafe KiKi」。その2か月後からスタートした「KiKiの広場」も、今回100号を迎えました。毎月、季節や作家さんなどテーマを決めて絵本の紹介をしたり、カフェやヒストリアであった出来事などを伝えてきました。NO.1の「ほっとフレイク」で紹介したのは、毎日バスで井筒屋に通っているという、85歳のおしゃれなご婦人のことでした。その後も時々お見かけしていましたが、昨年暮れにその井筒屋も閉店となり、どうされているかなあと気にかかります。2月末にはレッドキャベツまで閉店との発表に、寂しく胸の痛む年明けとなりました。でもこんな時だからこそ、他人事ではなくどうにか街を元気にする為に、みんなで知恵を出し合い、助け合っていかなければならないと、頑張りたいと、心の底から思います。

2月の予定

休館日	12(火)
定休日	毎土・日曜日
臨時休業日	4日(月)・11日(月) 25日(月)



「今月のケーキ」・・・「チョコレートケーキ」 350円

柔らかいココアスポンジに、カカオ分62%の甘さを抑えたチョコレートクリームを重ね、アクセントのくるみとチョコレートクランチの食感の、絶妙なバランスが楽しめる本格派チョコレートケーキです。

今月のお気に入り・・・「寒い2月を楽しむ絵本」

～「ゆうかんなアイリーン」「ゆき」「すみ鬼にげた」「おによいつよいおれまーい」「ねずみくんとゆきだるま」などなど～



ウィリアム・スタイグの「ゆうかんなアイリーン」は、吹雪の中お母さんの代わりに荷物を届けるアイリーンの頑張るお話です。「ロバのシルベスターとまほうの小石」でもそうですが、スタイグは主人公が窮地に陥った時、どんな風乗り越えていくのかハラハラドキドキさせてくれます。でも最後はほっこり心が温まります。「ゆき」は「よあけ」や「あめのひ」のユリ・シュルヴィッツ作です。積雪の被害にあわれている地域には申し訳ないですが、私は今もたまに雪が降るとワクワクします。シュルヴィッツの美しい雪の絵に、



子どもたちのはずむような想いが伝わってくる絵本です。マザーグースの本屋さんから出てくるお話

今月の本欄・・・「ことわざはやくちことばなど、ことばあそびの絵本」 の世界も楽しいです。

～「にせにせことわざずかん」「ことばあそびえほん」「あいうえおおかみ」「かいじゅうのこんだて」「馬の耳に念仏」などなど～



「にせにせことわざずかん」は荒井良二さん作で、にせで作ったことわざがいっぱい。「猫に小判 豚に真珠」は「猫にごはん 豚に新聞」「竹馬の友」は「竹輪の友」。ちよっぴり怖いのは、「喉から手が出る」が「井戸から手が出る」(笑)「ことばあそびえほん」は、石津ちひろさんと飯野和好さん作です。回文で



は「キスするススキ」。並べ替えでは「ひな祭り」が「暇な釣り」。早口言葉では「いばったバツタが さぼったバツタに ぼったりであった」などなど。目で見て笑って、声に出して耳で聞いて笑える楽しい絵本です。

ほっとフレイク

年末にびっくりすることがありました。実はあるローカル番組で KiKi がちょっとだけ取り上げられて、私も取材を受けました。その数日後ヒストリアに1本の電話が「昔〇〇幼稚園の先生をしていませんでしたか？」と。なんと、35年前受け持ちだった男の子からでした。テレビを見て、もしかしたらと思ってくれたそうです。年中さんだったのによく覚えていてくれたなあ、その上わざわざ連絡してくれたことに、とても感激しました。そして年が明けてから、奥さまと2歳の娘のMちゃんを連れて KiKi に遊び来てくれました。むか～しのアルバムから当時のクラスの集合写真をとってきて見せると、「これ僕です～」と今の面影が残る顔を指して、奥さまとMちゃんにも見せていました。とってお話上手なMちゃんも、4月から幼稚園だそうです。ちよっぴり心配というお父さんでしたが、1日1日大事に関われたらなあという言葉に、きっと家族みんなでMちゃんの幼稚園生活を楽しむことができるのではないかなと思いました。ウキウキするような春が訪れますように！ Yくん、ありがとう♡